



TITLE:

計画:1-3 群馬県霧積・妙義山系における野生ニホンザルの分布と生息環境(Ⅱ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

上原, 貴夫

CITATION:

上原, 貴夫. 計画:1-3 群馬県霧積・妙義山系における野生ニホンザルの分布と生息環境(Ⅱ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1992, 22: 54-54

ISSUE DATE:

1992-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164389>

RIGHT:

は前川グループが行動域を見瀬からさらに西の柏野へと広げたために有害鳥獣駆除の対象となった。阿蘇郡一の宮町の脱走グループは平成3年4月には阿蘇町のいこいの村周辺に一時居着いたが、7月には阿蘇山根子岳の北裾野から半周した南裾野へ現れるようになった。そのほかに球磨郡では錦町の集団が人吉市へ、球磨郡の集団が同じく人吉市へ侵入し被害を増加させている。

上記のように熊本県では行動域の拡大が顕著で、同時に個体数の増加が進行していよう。

計画：1-3

群馬県霧積・妙義山系における野生ニホンザルの分布と生息環境

上原貴夫（長野県短大）

対象地は群馬県碓氷郡松井田町、甘楽郡妙義町、下仁田町である。「長谷部言人 大正12年ニホンザル棲息状況調査」（水戸幸久氏判読注）によると、当時、現松井田町では生息は無く、妙義町では「寡」として生息、下仁田町では「転来スルモノ」と記録され、続く南牧村地域では「伐採区拡大ト共ニ数年后ニハ絶無トナルヘシ」と記録され、いずれにしろそれほど多くない状態で生息や出没がみられていたと考えられる。しかし、現在では、むしろこれら一帯に多く生息・遊動している。先の調査時点とは逆転した状況となっている。

特に松井田町の霧積川流域、湯ノ沢および水谷地区、国道18号線沿い（碓氷峠一帯）、同バイパス沿いの遠入、赤坂、明賀、恩賀、下手地区、山麓部の横川、高墓、御所平、五料、梅ヶ丘に多い。同地域では1987年、88、89年頃にかけて次第に遊動域が山麓の農地や住宅地等に拡大・定着化してきた。一時期、碓氷峠一帯での遊動が減少することもみられた。妙義山系方面（妙義町、下仁田町一帯）では白雲山と山麓の諸戸地区、金鶏山、上小坂、菅原地区、金洞山、松倉地区、御堂山、中野、半弓、上野、初鳥屋、芝ノ沢地区一帯に遊動する。全般に遊動域は相当に拡大してきた。霧積山系方面では倉淵村や長野県軽井沢町にも出没している。妙義山系方面でも下仁田町では次第に西の長野県佐久市寄りに、また、市ノ萱川を越えた地域に近年出没を広げてきている。

現在の動向については主な生息域である山中において高速道（上信越自動車道、93年供用開始）

や高圧鉄塔（群馬-山梨幹線、88年工事開始）、北陸新幹線（89年輕井沢起工式）などの大規模工事が相次いで開始されたことや猿害（最初の報告は80年妙義町、下仁田町、82年松井田町）とその対策の進行などが影響していると考えられる。猿害対策としての駆除は過去5年間（86年度～90年度）で松井田町134、妙義町19、下仁田町113、合計266個体である。今後、特に高速道は松井田町において生息・遊動密度の高い地域を分析し、インターチェンジ、サービスエリアも設けられるなど影響も大きいと考えられる。今後の動向を注意深く見つける必要がある。

計画：1-4

中国地方の野生ニホンザルの分布と個体群の動態

上田 丞・林 勝治（宇部短期大）
田中 浩（三田尻女子高）
村田 満（三田尻女子高）
吉岡龍太郎（下松工業高）
村崎 修二（猿舞座）
小村 洋子（益田高）
小田 博之・駅場 春樹・藤下 積

今年度はアンケート法により山口県の野生ニホンザルの分布についての調査をした。また島根県で、テレメーター法による調査の検討と群れ数の把握を計画した。結果および今後の調査問題点は次の通りである。

アンケートの結果：山口県の全域を対象として、1987年度と全く同じ方法で野生ニホンザルの分布調査を試みた結果、分布に変化はなかった。アンケートだけの集計であるが、群れ数は40群（1987）から51群（1991）に増加したにもかかわらず、全頭数は変わっていなかった。したがって、一群あたりの平均頭数は30頭前後からおよそ25頭に少なくなっていた。

アンケートの検討：山口県岩国市の野生ニホンザル生息地で全自治会長にアンケート用紙を配付し、1991年10月15日から11月15日の間、ニホンザルと遭遇した自治区の人およびその時のサルの状況の記録を依頼した。

この結果、岩国市には30頭前後の群れが2群、5頭前後の小集団が2グループいることが分かった。